

日本におけるモバイルクラウドの発展に向けて

MCPC

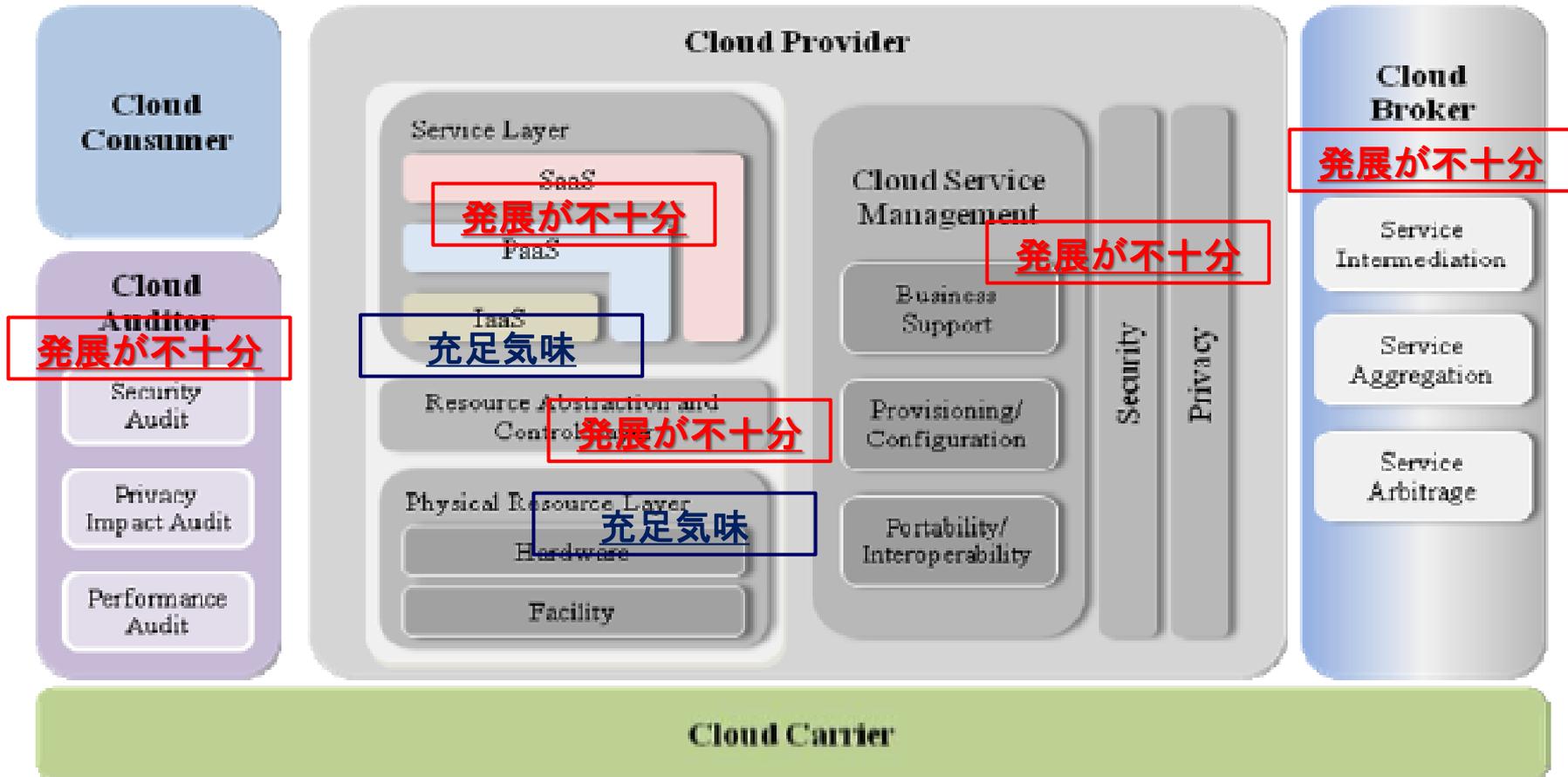
モバイルクラウド委員会

- アメリカとはクラウドサービスの技術力、サービス展開、ビジネスモデル等で圧倒的な力の差がある。
- クラウドサービスで、日本の企業の優位性を発揮できる要素が乏しい。
- 日本においては、クラウド等の大きな変革への対応する速度が遅くなっている。

モバイルクラウドを取り巻く状況をふまえて検討

1. 日本の現状をしっかりと認識し、日本の実情にあわせ、業態にとらわれないモバイルクラウドのecoシステムモデル化を検討する。
2. モバイルクラウドの発展に向けた方策及び日本のIT業界が持続的な発展を行えるような仕組み作りを支援する。
3. 全体最適化とは別に日本が得意な「部分最適化」による成功モデルの具体的な検討を行う。

NISTのクラウドリファレンスアーキテクチャと今後の発展が必要な分野



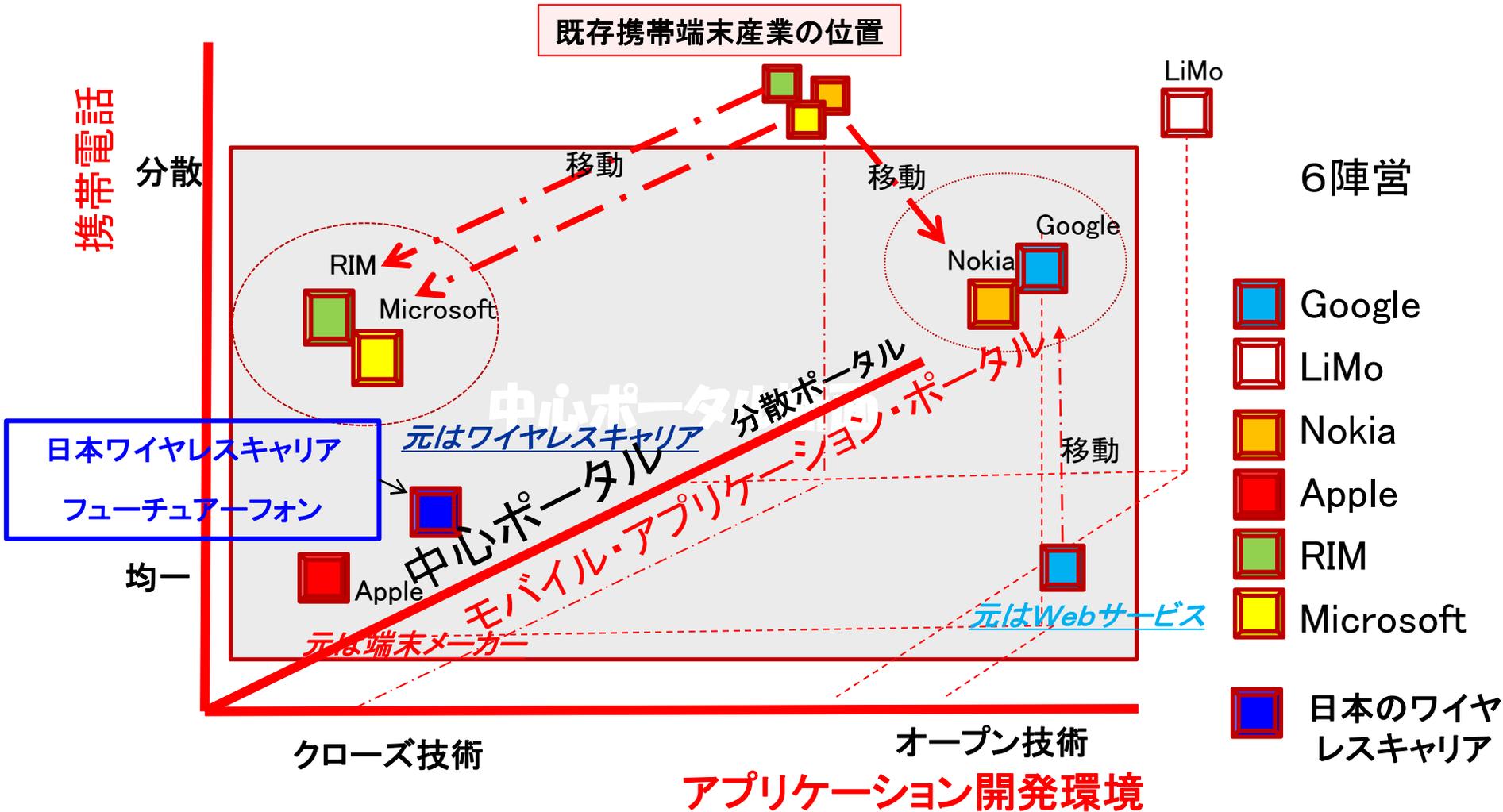
NIST Cloud Computing Reference Model

日本のモバイルクラウドの抱える課題

- 特定分野に投資が集中しており、ecoシステム化には、程遠い。
- 未発達な分野も多々あるが、各分野でのプレイヤーが不在で、今後発展する要素が乏しい。
- コンシューマではすごいスピードで利用が進んでいるが、エンタープライズでの利用が遅れている。

1. Ecoシステムモデル化

モバイルクラウドのグローバル企業の3軸図上で6陣営を位置づけ



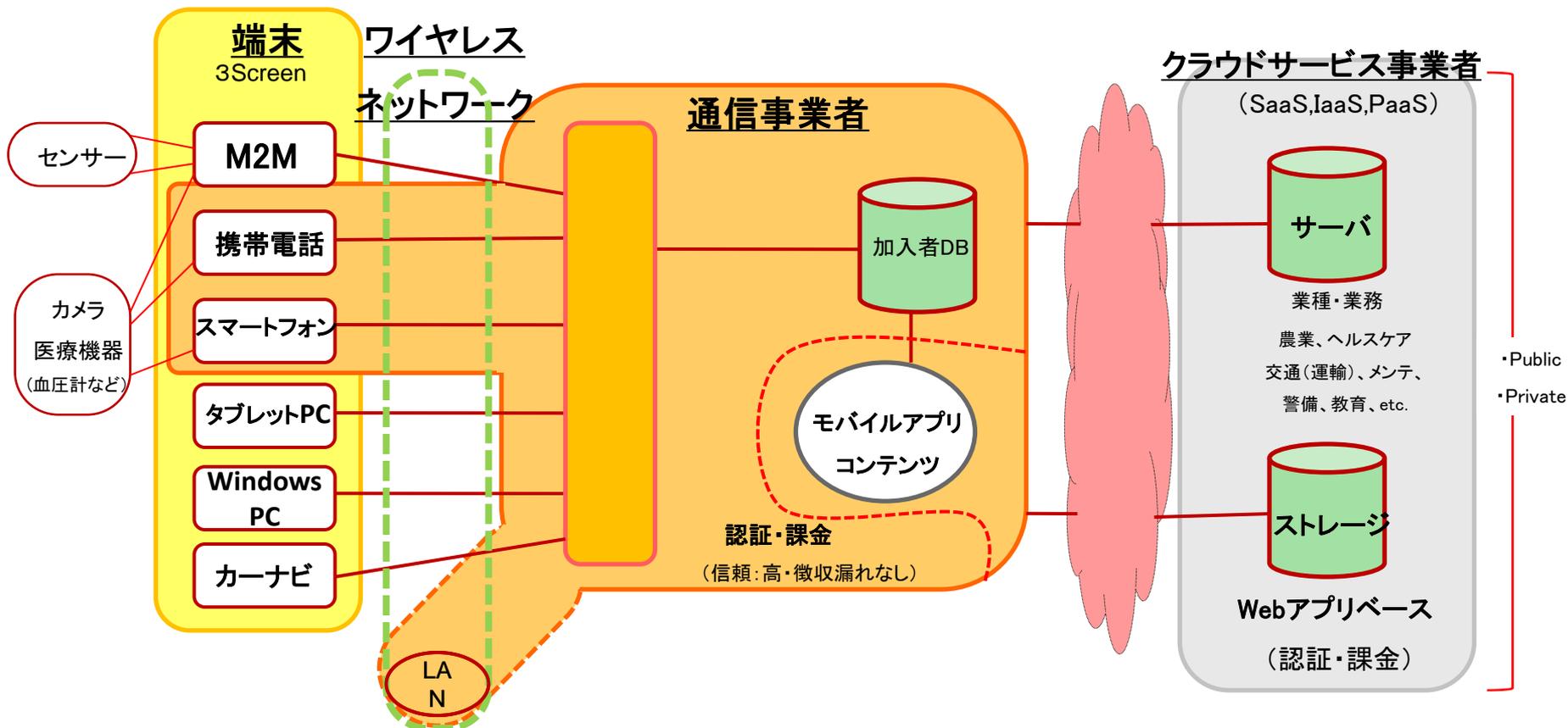
参考) MCPCアドバイザー高橋先生「モバイルクラウドサービス構築に向けて」資料より

日本のモバイルクラウドのビジネスモデルの抱える課題

- 日本ではワイヤレスキャリアが先導していた分野であり、他プレイヤーであるメーカー、サービスプロバイダー等によるクラウドのビジネスモデル構築ができていない。
- グローバルで活躍するクラウド企業は、もともと目的が違う事業を行っている企業であり、ゼロベースで臨んでも、新たなビジネスモデル構築は厳しい。
- 既存モデルをベースに無理にビジネスモデルを変革させようとするると多大な投資が必要となる。

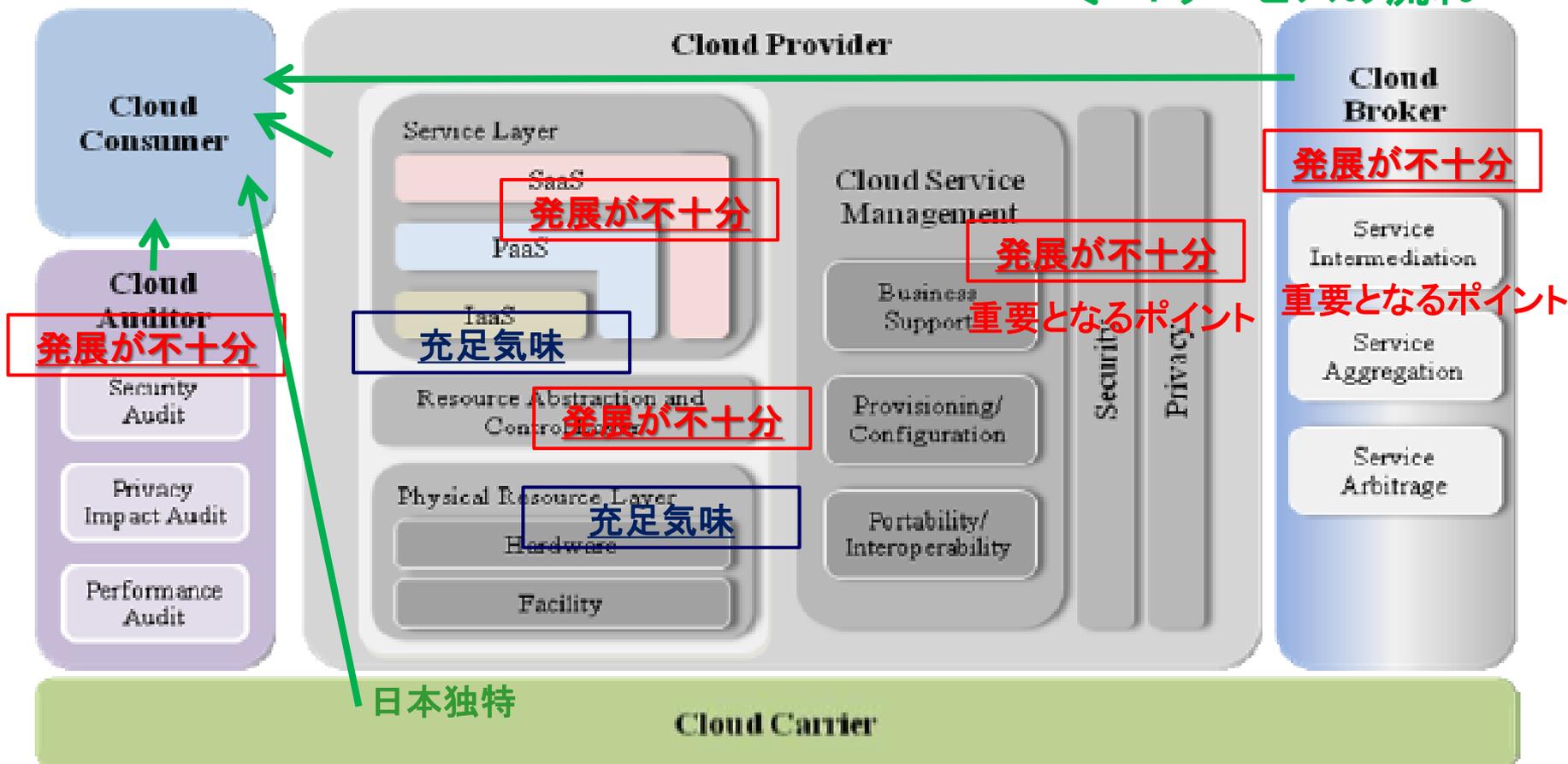
今や、Apple、Google、Facebook、Twitterもサービス提供環境として捉え、その上でも利益を生み出すような発想の転換が必要

現状の日本のモバイルクラウド環境



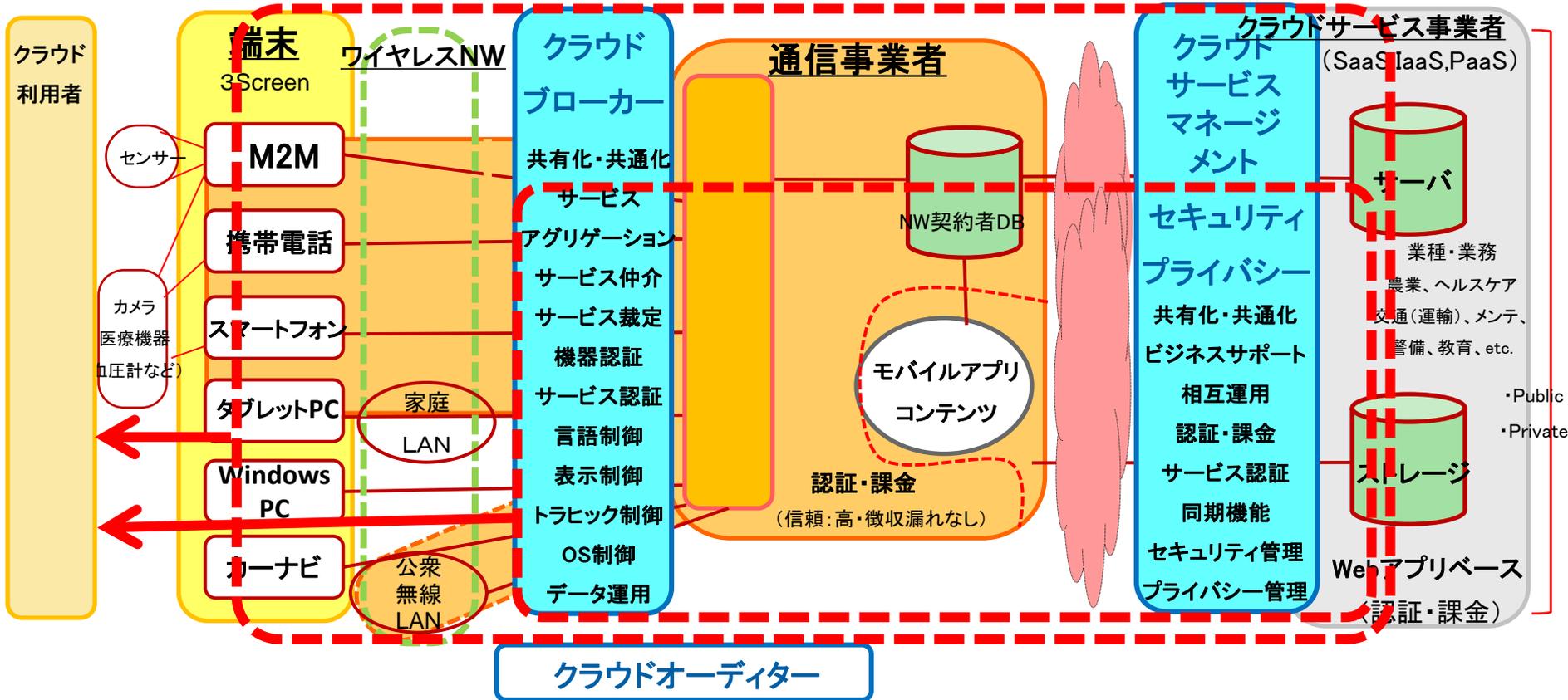
NISTのクラウドリファレンスアーキテクチャにおけるサービスの流れ

← : サービスの流れ



NIST Cloud Computing Reference Model

日本のモバイルクラウドecoシステムモデル - NISTアーキテクチャとの比較に基づく -



「クラウドサービス事業者 (特にプライバシー、セキュリティ)」、「端末メーカー」並びに「通信事業者」が協力しつつ、クラウドブローカー、クラウドサービスマネージメント等各分野をなるべく少ない企業でカバーし、クラウド利用者からなるべく単一かつecoな形でサービスを受けられる環境を構築する。

日本のモバイルクラウドのecoシステムモデル化の留意点

- 金融も含め、アントロプレナー、ベンチャー企業、法人企業が容易にモバイルクラウドサービスを市場に投入・サービス展開できる環境であること。
- モバイルクラウドに参入しやすく、イノベーションが活性化できるように、意図的に社会のコンセンサスを得る努力する。
- クラウド利用者からなるべく同じ環境でサービスが利用できるような業態になるように努力する

モバイルクラウド委員会では、ecoシステムモデル化と並行してCIS-WG(Car information system)において、モバイルクラウドの具現化の取り組みを行ってきている。

既にCIS-WGにおいては、モバイルクラウド活用による「交通弱者向け地図整備及びナビゲーション実現」の検討を進めており、この検討を通して、モバイルクラウドの発展に向けて必要な標準、API等を整理し、具体的な検討につなげて行く。また、この活動を通して、モバイルクラウドの普及促進に向けた施策を検討し実現に移していく。